



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

回覧

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター 【小林市社会教育課】 Tel.22-7912
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター 【小林商工会議所】 Tel.23-4121



市立図書館

7月、いくつかの事業所で中学2年生の職場体験の様子を見学させていただきました。子どもたちは、小学校での職場見学や高校でのインターンシップを含め、仕事に関するさまざまな学習をします。

それらは、単に体験することが目的ではありません。勤労観や職業観の育成、自己の個性や適性の把握と自己理解、コミュニケーション能力や社会的スキルの育成、学校での学習と社会の繋がりを学ぶなどの意義があります。

職場の方に教えてもらいながら熱心に働く中学生の姿を見て、学校だけでは学べないことがたくさんあると改めて思いました。

南小 海上安全教室(着衣水泳) 6年生



宮崎海上保安部(日南市油津)の6名の職員から「浮く」技術を学びました。

全員でプールを回って流れを作り、急に反対向きになると体が激しく押し流され、子どもたちは流れの強さにびっくりしていました。

浮く練習では、何も持たずに浮いた後、ボールやペットボトル、空気の入ったビニール袋などを使ってみました。ライフジャケットの使い方や、溺れている人へはロープや浮力のあるものを投げるなど、対処法の説明もあり、子どもたちは楽しみながら命を守る方法を学んでいました。

須木中 浜ノ瀬ダム見学 1年生



説明は宇都さん(西諸土地改良区)



学校から北西に車で25分ほどの所にある灌漑目的のダムです。管理事務所でダムの種類と役割(防災や水利、発電など)について学んだ後、ダム内部の階段を57m下りて最下部へ。気温14度のひんやりした空気の中で、ダムの管理や点検についての話を聞きました。地震計も設置し

てあり、震度4以上の地震が起きると、深夜でも駆けつけ、安全確認をするという話に、生徒たちはびっくりしていました。

この後、下流の発電施設も見学しました。

小林小 租税教室

十数組に分かれ、大人が説明役です。



6年生



宮崎法人会青年部考案のゲーム。全国大会で優秀賞を獲得

小林税務署と小林法人会青年部・女性部の皆さんによる授業です。前半は税のない社会を描いたDVDを視聴し、クイズに答えながら税金の種類と役割について学びました。

後半は「まちづくりワークショップ」。チームごとにテーマを決め、地図上に建物のシールを貼って理想の街を作ります。600億ZENの予算で、税金の有効な使い方を考え、施設を整備しました。

授業の終わりには、「みんなが楽しく暮らしやすい街」「にぎやかな町」「観光地になる町」「高齢者や子どもに優しい町」など、子どもたちの願いが込められた街がたくさん出来上がりました。

紙屋小 城攻め踊りの練習 4~6年生



指導は紙屋城攻め踊り保存会(手塚会長)のメンバー5名。「30年前に私も教わりました」という方もいて、伝統の重さを感じました。初参加の4年生は太鼓の付け方とバチの持ち方から始め、徐々に、手の動きや足の運びを学びました。

「時間をたくさんいただいたので今日で仕上げます」と手塚さん。運動会での披露に向けて、子どもたちは熱心に取り組んでいました。

西諸にはさまざまな郷土芸能が伝わっていますが、後継者の育成が難しいという声をよく聞きます。子どもたちのはつらつとした動きを目で追いながら、伝統を伝えていく学校の役割について考えていました。

三松小 史跡めぐり

6年生



案内はガイドボランティア協会の皆さん

関ヶ原の戦いの供養碑や飯田家五輪塔、開拓記念碑のある田中の鼻など、校区内の5か所の史跡を見て回りました。

関ヶ原の戦いで西軍について佐土原藩はとりつぶしになり、一部の藩士と家族が堤地区に移住しました。農民になっても武士としての誇りを忘れなかった人々の生き方が、後の「三松魂」に繋がっていると言われています。

見学の後は、教室で、ガイドボランティアの皆さんが作った解説動画を視聴し、さらに詳しく学びました。

須木小 灯ろうづくり



須木小には年に数回、「みんなで〇〇をする日」があり、児童が交替で企画・運営をします。今回は3・4年生が担当して、須木の納涼花火大会で展示する灯ろうを作りました。

1～6年生が4つのグループに分かれて作業開始。教室には題材選びに困らないよう3・4年生が準備した「絵を描くヒント」が掲示され、子どもたちは、それらを参考に須木の特色や夏に関する絵を思い思いに描いていました。

最後は、全員が集まって発表会。3・4年生が進行し、絵を披露し、感想を述べました。

この後、灯ろうの型に貼り付け、個性溢れる作品が出来上がりました。(花火大会は地震の影響を受けて中止になりました。)

西小林中「小林未来予想図」スタートアップ会議

3年生



3年生は4つのチームで探究活動を行っています。今回、市役所の9つの課から12名の職員を迎え、進捗状況と今後の進め方について発表しました。



その後は意見交換会。小林市の課題と解決策についてグループで話し合いました。職員からは施策の説明や質問への回答もあり、生徒たちは今後の活動に役立つアイデアをたくさんもらいました。今後、最終の発表会に向けて、さらに探究活動を続けます。

【4つの探求チーム】◆ 健幸のまちづくり推進

◆ 市PR・観光・経済の活性化推進 ◆ 農畜産業活性化の推進 ◆ 子育て支援・教育・福祉の推進

【出席】企画政策課・地方創生課・商工観光課・農業振興課・畜産課・福祉課・こども課・学校教育課・長寿介護課の皆さん

こすもす科のふるさと学習では、学年が上がるとつれて、調べたことの発表から課題解決の提言に向かう流れになっています。その次の段階はアイデアを実現する取組でしょうか？

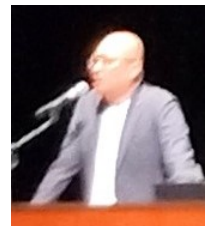
修学旅行での宣伝活動や地域の行事への参画など、子どもたちが地域に貢献する取組が多く学校の見られます。

教育フォーラム

大工原忠相さん：日本電気株式会社文教科学ソリューション統括部

市内の小中学校の教職員280名が出席して文化会館で行われました。(主催：小林市教育委員会)

前半は大工原さんの講演。演題は「子どもたちに必要なVUCA(ブーカ)時代のキャリア教育とは」。VUCAとは将来の予測



が困難なため、自己の経験(既存の価値観やビジネスモデル)だけでは対応できないこと。量子通信技術など、10～20年後には実現するさまざまな未来技術を紹介した後で、そういう時代を乗り切る能力や教育内容、大人の在り方についてお話してくださいました。「前例踏襲ではなくチャレンジする大人の姿を子どもたちに見せること」という一言が心に残りました。

後半は大工原さんと4人の登壇者による小林のキャリア教育についてのトークセッション。

話題の一つが小林の地域学習「こすもす科」。子どもたちの自立や地域への愛着を念頭に構成された教科です。その価値を最大限に生かすために必要な外部講師の導入や子どもたちの自主的な活動など、指導方法を充実させる具体的な取組についても語り合いました。

主催：「絆を結ぶ物語」実行委員会

高校生寺子屋テナム



夏休み中の3日間(13:30～15:30)、小林高校生約20名が小中学生の学習を手伝いました。高校生たちはマンツーマンで、宿題の解き方を教えたり質問に答えたり…。教えることを通して貴重な学びも得られたようでした。